

職業としての『農業』



● 問合せ 農業振興課農政企画係 (☎☎2557)

農業が持つ役割は、人が生きていくために必要な食糧を供給することだけではありません。先人たちが多くの時間と手間をかけて作り上げた農地には、大雨時の洪水を防ぐ機能もあります。また適切な農地管理は、鳥獣被害の抑制にも効果があります。

しかしながら、国内では、少子化による人口の減少や農畜産物価格の低迷などの時代背景の中で、農業従事者の高齢化は進行し、新たな農業の担い手が不足することで、耕作放棄地の増加などさまざまな問題が起っています。

このような問題はわが市でも例外ではなく、肉用牛や梨、きゅうりなどの農畜産物が県を代表する産地となっていますが、いかに次代の担い手となる新規就農者を確保・育成し、農業を維持していくかが重要な課題となっています。

このような中、市内には、新規に就農する若手農家が毎年誕生しています。今回の特集では、新規就農者が農業を始めるきっかけや思いなどを通じて、職業としての農業を考えます。

皆さんも今一度、大切な産業である『農業』について考えてみませんか。

農業を選んだ人たち

新規就農者の状況

市内の平成27年から令和2年の新規就農者は74人〔表〕〔グラフ〕で、就農に至った理由や事情はさまざま。家業を継いだ人や、それまで農業とは無縁の仕事をしていて人、仕事を通じて知り合った農業者から刺激を受けて就農を決意した人もいます。

農業を選んだ人の思い

市内で就農することを決意した人たちはどのような思いで農業を選び、農業についてどのように感じているのでしょうか。果樹農家の梅村重幸さん、肥育牛農家の野中杏美さん、米麦農家の前田恭兵さんの3人に、インタビューをしました。



profile

会社勤めをしていたが、妻の実家である南波多町に引っ越してきたことをきっかけに義父母の営む農業を手伝うようになり、平成30年3月で仕事を辞め本格的に梨栽培を始める。果樹のほか水稲も手がける。40歳。

果樹農家（梨、すもも）
梅村 重幸 さん（南波多町）

手をかけただけおいしくなる

■ インタビュー

結婚後は、唐津市内の会社に勤めていましたが、妻の実家が果樹を栽培する農家だったので、ゆくゆくは継がなければならぬと思い、長男の小学校入学を機に就農しました。私の実家も果樹農家なので、継ぐことにあまり抵抗は無かったです。就農して3年目となりますが、日々、義父母の下で勉強中です。台風や大雨のときは大変ですが、たくさんの実がついた光景を見ると、1年間手塩にかけて栽培したかひがあります。就農して良かったことは、子どもたちと過ごす時間が増えたことです。おかげで会話も増えましたね。梨を栽培するのは難しいですが、手をかけただけおいしくなります。それが農業の魅力ですね。



↑ 師匠で義父の光昭さん（左）と義母の正子さん（右）

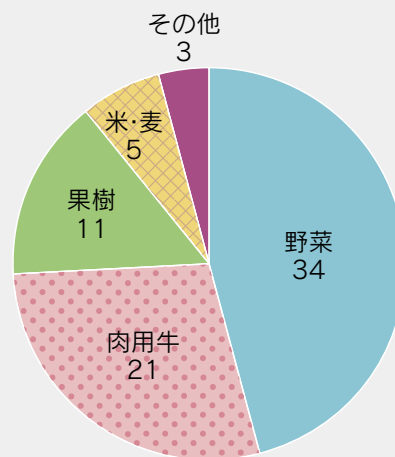
〔表〕 新規就農者の推移（法人就農者含む）

単位：人

H27	H28	H29	H30	R元	R2	合計
8	8	11	16	12	19	74

※令和2年の新規就農者 19人の内訳
施設野菜9人、果樹5人、肉用牛5人

〔グラフ〕 部門別新規就農者数
(H27～R2集計)





profile

平成30年3月に県農業大学校を卒業後、同年4月から祖父と二人三脚で農業に従事。米7ha、麦12haを手がける市内有数の米麦農家。米麦のかたわらブロッコリーも栽培する。23歳。

米麦農家

前田 恭兵 さん (立花台三丁目)



profile

就農前はデザイン会社に勤務。家業の畜産業を営む夫が体調を崩してしまったのを機に、平成26年4月から畜産に従事。夫と義父母の4人で、180頭の和牛を肥育する。36歳。

肥育牛農家

野中 ^{あずみ} 杏美 さん (大川町)

祖父のような農家になりたい

■ インタビュー

幼少期から、農業で汗を流す祖父の背中を見ていたので「自分にはこれしかない」と思い、農業への道を選びました。高校卒業後に進学した佐賀県農業大学校では、さまざまな資格を取得し、農家を目指す若者とのつながりができました。実際に就農してみると、子どものころにしていた『お手伝い』と農業経営とは全く別物ということが分かりました。農業は、重労働で農繁期は休日がないほとんど無いですが、体が丈夫になるし、一生できる仕事なのが魅力です。現在は、祖父の地元大川内地区で、主に後継者がいない農家さんなどの田んぼを借りて、米麦の栽培をしています。今後も面積を増やしていきたいですね。祖父のように、地域の皆さんに尊敬される農家になるのが夢です。



↑ 水稲の生育状況を確認する前田さん

たくさん牛肉を食べてほしい

■ インタビュー

畜産の世界に飛び込むことに抵抗はありませんでした。最初は動物に興味はありませんでしたが、世話をしているうちにかわいいと思えるようになりました。就農して6年目ですが、良い牛を見分けるのはまだ難しいです。しかし、重機で糞を運ぶ作業など、機械を使う仕事を任せてもらえるようになり、家業に貢献できてうれしいです。家族揃って旅行に行けないのは動物を飼う仕事の宿命ですが、それ以上に楽しいことも多く、就農して良かったと思っています。最近ではA5ランクの評価を立て続けにもらうようになった一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で、牛肉の消費量が低迷しています。一頭一頭丁寧に牛を見ながら大切に育てているので、たくさん牛肉を食べてください。



↑ 牛の体調を確認するのも大事な仕事と話す野中さん

～ 就農までのみちすじ ～



Step 1 相談する

農業を始めたいと思ったら、まずは関係機関へ相談しましょう。

・主な相談窓口

- ▶ 市農業振興課農政企画係 (☎2557)
- ▶ 伊万里農林事務所 西松浦農業改良普及センター (☎5128)
- ▶ 伊万里市農業協同組合 (☎5560)

就農相談会

西松浦農業改良普及センターでは、毎月第3火曜日の午後2時から就農相談会を開催しています。品目・農地・資金・経営計画など、気軽に相談してください。相談は予約制となっていますので、希望する人は、事前に電話してください。

Step 2 情報を集める

農業に関する基本的な知識を習得しましょう。農家を見て回ったり、経営主の話を聞いたりするなど多くの人の声を聞くことも大切です。農園での農業体験や新規就農者向けのセミナーなども開催されています。

Step 3 就農計画を作る

自分の経営目標を明確にしましょう。農業といってもさまざまな品目があり、それぞれで経営のやり方が異なります。

◇ 就農計画7つのポイント ◇

- ① どの品目(家畜)で始めるのか
- ② どこで就農するのか
- ③ 栽培方法は(露地・ハウスなど)
- ④ 経営タイプは(単一作物・複数作物複合経営)
- ⑤ 規模は
- ⑥ 販売・所得目標は
- ⑦ これらを達成するために必要な技術・施設・資金

Step 4 農業技術を習得する

農業を営むためには、確かな技術が必要です。やりたい農業のイメージができれば、先進農家や農業法人での研修、農業大学校などで技術や経営ノウハウを身に付けましょう。

Step 5 就農準備

農地や施設、機械の準備はもちろん、新しい土地で始める場合は住まいの確保なども必要です。

就農を決意したら

支援します 『新規就農』

今回紹介した3人に共通することは、就農のきっかけはそれぞれ違いますが、農業に対して魅力や可能性を感じ、その道を選んでいるということです。しかし、実際に農業を始めると、設備投資などの

費用の工面や、専門的な技術の習得などさまざまな準備が必要で、不安なことも多いと思います。農業を始めようとするそのような人に対し、国・県・市や農協などでは補助金をはじめさまざまな面でサポートする仕組みがあります。

新規就農者向けの ナシ就農セミナーの様子



← 梨生産者による現地説明会



↑ パネルを使って梨の年間作業の説明



Agricultural support project for maintaining Imari brands

～ 伊万里梨・伊万里牛産地強化支援事業 ～

伊万里を代表する特産物である『梨』と『牛』。

しかし、高齢化や後継者不足などの影響で農家数が減少し、産地の維持が危ぶまれています。そこで市では、産地を維持・強化していくため、下記の事業に取り組んでいます。



伊万里梨 産地強化への支援

- 梨園を守る取り組み
- **新規就農者確保の取り組み**
- 生産量確保の取り組み



伊万里牛 産地強化への支援

- 一貫経営への支援（繁殖～肥育）
- 肥育牛農家の規模拡大の支援

➔ Pick up! 伊万里市梨栽培研修給付金制度

梨部門での新規就農者を確保するため、市内の梨農家の指導の下、就農に向けた研修を行う研修生に対して給付金を支給します。

- 給付金額 100万円（夫婦で研修を受ける場合は150万円）
- 給付期間 最大24か月
- 対象者要件
 - ・ 研修開始時の年齢が50歳未満であること
 - ・ 研修終了後は、伊万里市に居住し市内で梨栽培をすること
 - ・ 直系親族に梨を栽培している人がいないこと
 - ・ 年間研修時間が1,200時間を超える計画であること

佐賀県農業大学校（一般入試）の学生募集

佐賀県農業大学校では、令和3年4月入学の学生を募集します。

● 募集課程・人数

▷ 本科（2年制）募集人数50人のおおむね3割

▷ 専科（1年制）若干人

※米麦大豆、野菜、果樹、花き、畜産などが学べます。生産から加工・販売まで6次産業化にも対応しています。

● 応募資格

高校を卒業した人または令和3年3月に高校を卒業する見込みの人

● 一般入試

▷ 1次募集

願書受付 11月9日（月）～25日（水）

試験日 12月11日（金）

● 問合せ先

佐賀県農業大学校（☎0952⑤2144）



活用しませんか

『青年等就農計画』認定制度

認定新規就農者になることで、農業技術習得のための支援や、無利子の制度資金、補助事業などの公的支援を活用できるようになります。

《受けることができる支援措置》

① 青年等就農資金の活用

就農に必要な施設整備や運転資金として3,700万円までの無利子資金の融資

② 施設整備などへの補助事業の活用

新規就農者を対象とした国・県・市の補助事業

③ 農業次世代人材投資事業の活用

経営が軌道に乗るまでの期間を対象に、年間最大150万円（最長5年間）の資金を交付

④ 市や関係機関による総合的なフォローアップ

各種セミナーや勉強会の開催など

※詳しい内容や支援を受けるための条件などは農業振興課に問い合わせてください。